

投資事業評価調書（継続:再々評価）

部課室名	農林水産部農林水産局 農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	農地整備課長 松浦 猛 (関根 茂雄)	内線	4003 (4014)
------	---------------------	---------------------	---------------------------	----	----------------

事業種目	ほ場整備	事業採択年度	S 6 0		現 計 画	再評価時点
事業名	経営体育成基盤整備事業	着工年度	S 6 0	総事業費	約115億円	約102億円
		再評価年度	H 1 0	内用地補償費	約6.72億円	約6.03億円
事業区間	三木北部地区			完成予定年度	H 1 8	H 1 4
所在地	三木市 口吉川町、細川町			進捗率 (内用補進捗率)	99% (99%)	82% (81%)

事業の目的		事業内容	
<p>本事業は、地すべり危険区域で狭小・不整形な谷地田の地形条件で営農が行われている三木市北部において、ほ場整備により区画形質の改善、用排水路・農道等の整備、農地の集団化を行い、農業経営の改善、優良農地の確保とあわせ、担い手の育成を目指して実施するものである。</p>		<p>区画整理 633ha 残事業量 [ 換地業務一式 ]</p> <p>工事費の負担割合 (国：50%、県：27.5%、市：12.5%、地元：10%)</p>	

進捗状況	<p>昭和60年度に着工し、再評価時点（平成10年度）の進捗率は82%であった。</p> <p>本地区は、優良農地を確保するため、地元施工による公共残土等を受け入れ、ほ場整備を実施してきたが、社会情勢の変化による公共残土等の減少に伴い、盛土用土の確保に時間を要したこと及び地すべり地形であったため、事業工期が4年間延延している。</p> <p>面工事も平成15年度で完了する見込みであり、16年度以降は換地処分に向けた作業を行い、18年度に事業完了の予定である。</p>
------	---

評価視点	評価結果の説明
(1)必要性	<p>当地区は、酒米(山田錦)を中心に、都市近郊の立地条件を生かし、ナス、菊等を生産しているが、現状の農地は小区画・不整形で用排水路、農道等も未整備なため、昭和60年度からほ場整備を実施してきた。</p> <p>担い手(集落営農組織)の育成状況については、計画している33集落営農組織のうち21組織が既に設立済みであるため、引き続き事業を実施し、農地の集積を促進して生産性の高い農業構造の実現を目指す必要がある。</p>
(2)有効性・効率性	<p>費用便益比 <math>B/C = 1.25</math>、所得償還率22.9%であり、事業としての効果が期待できる。</p> <p>ほ場整備事業のなかで学校・河川等の用地を創設するなど、効率的な整備を行っている。</p>
(3)環境適合性	<p>貴重な動植物が生息するため池については現状保存を行い、生息環境の保全に努めている。</p>
(4)優先性	<p>営農に多大な時間と労力を要している本地区においては、ほ場整備事業により農業経営の安定、地域の活性化を図り、早期に事業を完成する必要がある。</p>

再々評価の結果	継続妥当	左の理由	上記の理由により継続が妥当である。
---------	------	------	-------------------